

# 僕が皆に伝えたい事

青垣中学校 三年 足立 琉煌哉

僕は、普通の人とは少し違った個性を持っています。

自閉スペクトラム症という発達の病気です。対人関係とコミュニケーションをとるのが、難しかったり、強いこだわりが多く、忘れ物が多かったり、集中力がもたず気が散ってしまう事など、多人数の中で生活するのが難しい事があります。この病気は生まれつきの脳機能の異常によるものと考えられているようです。この病気を知ったのは小学校一年生の時で、その頃、友達が居なくて苦しい思いをしたのを覚えています。

最初に母が「この子は他の子と違う」と気づいたのが1才～2才頃でした。人と目を合わせない、おもちゃは車でしか遊ばない、駐車場内で突発的な行動をし車にひかれそうになるなどがあったそうです。そこで母は市の発達支援センターへ相談をし検査を受け僕は療育の教室へ通う事になったそうです。そこで専門の先生に関わってもらい、色々な授業を受け勉強したようです。小学校へ上がってからは、言葉で示すより物事の順序を絵で示した方が分かりやすく、母は絵カードを使ったスケジュール表を作って、見通しを立てられるように色々な工夫をしてくれました。学年が進むにつれて、周りの子とのコミュニケーション不足、友達との関わり、ルールなどで苦しみました。「僕にはなぜ友達が出来ないのだろうか。」その事で心がいっぱいになり、布団の中で泣いて学校へ行くのが嫌な時がありました。唯一、特別支援学級の子だけが兄弟のように関わってくれ、心の支えとなり、その苦しみを乗り越える事が出来ました。

中学生でも、一年の間は友達も出来ず、声を掛けてくれる子も少なく、毎日休み時間は一人で本を読んだりして過ごしていました。

中二になった頃から、友達が一人二人と増え、段々とコミュニケーションも取れるようになってきました。自分の事を分かってくれる友達が増え今では、僕の事を特別視せず、自然体で付き合ってくれる友達が増えました。その関わりの中で僕への対応をしてくれる同級生の心の成長や関わり方はすごいと思うし、優しく接してくれたみんなには心からとても感謝しています。その皆のお陰で学校生活が楽しくなり、毎日頑張って学校に行っています。

そして、部活では、小さい頃から大好きな音楽ができる吹奏楽部で「セクションリーダー」を任せられ、一生懸命頑張っています。

今の僕を作ったのは、小さい頃の、つらい思いを乗り越え、心が強くなった経験だと思っています。分からないでこまっている時も授業の移動、準備物など、声掛けをしてくれた子もいたお陰で今では、自分の考えで行動できるようにな

り、その子達にはとても感謝しています。

人は十人十色。その中で一人一人の個性を受け入れ支え合って差別の無い世界にしていって欲しいと思います。

僕は最初、この作文を書く事で、自分の事をさらけ出し、皆に知られることが嫌でしたが、母は「発達障害である事を隠さず、ありのままを皆に受け入れてもらい、理解してもらう方が自分も苦しくなく、自分らしく生活できるし、同じ障害を持っている子供達の事を理解してもらう為にも、知ってもらった方が良いんじゃない？」と言われ、作文を書く事にしました。

まだまだ、発達障害について理解している人は少ないと思うし、僕は、一生この障害と付き合いなければいけないけれど、自分の個性を生かし、自分の得意とする音楽で、人を笑顔に出来るような存在になりたいと思います。